

## (10) 四 国



四国地域では、景気は弱さがみられるものの、緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は底堅く推移している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(    は上方に変更、    は下方に変更)

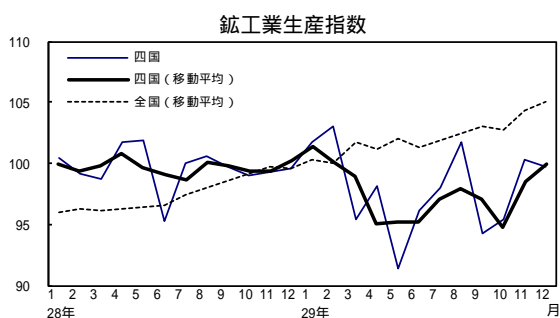
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成29年11月)	今回(平成30年2月)	
個人消費	足踏み	底堅く推移	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

### 1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

10 - 12 月期には、化学・石油石炭製品は、アクリロニトリル等の生産増から増加した。電気機械は、稼働日に起因する光電変換素子や線形半導体集積回路等の生産減から減少した。食料品は、清涼飲料等の生産減から減少した。はん用・生産用機械は、化学機械・貯蔵槽等の納期が重なったことから増加した。非鉄金属は、電気銅等の生産減から減少した。



(備考) 1. 22年=100、季節調整値、四国の最新月は速報値。  
2. 全国及び四国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

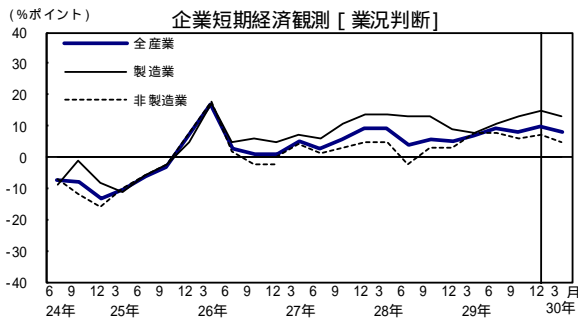
	付加価値 ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10月	11月	12月
化学石油石炭	22.9	1.4	4.1	5.7	15.1	3.9
電気機械	15.8	1.1	0.6	1.7	1.6	4.8
食料品	10.5	7.9	5.3	8.7	3.4	0.6
はん用・生産用機械	10.0	0.8	11.0	6.6	16.2	19.7
非鉄金属	8.0	4.8	1.3	1.0	3.5	1.5
鉱工業	100.0	2.9	0.5	1.2	5.1	0.6

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 10 - 12 月期、12月は速報値

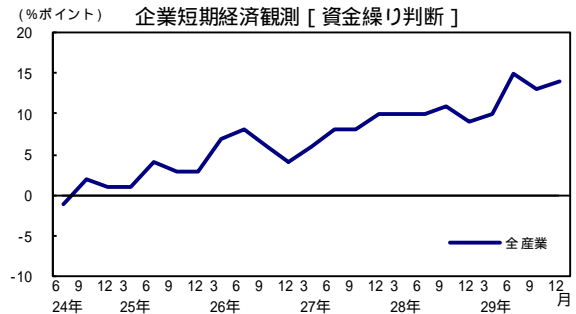
(10) 四国

(2) 日銀短観における業況判断は「良い」超幅が拡大しており、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

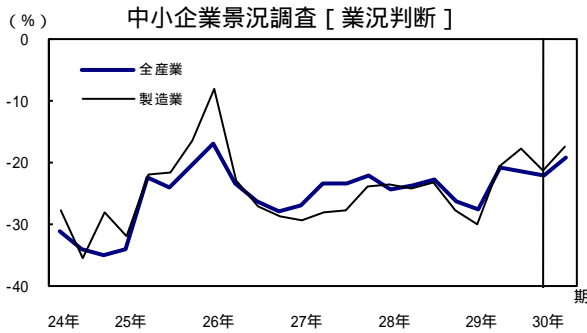
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。30年3月は予測  
26年12月は新・旧基準を併記



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
26年12月は新・旧基準を併記

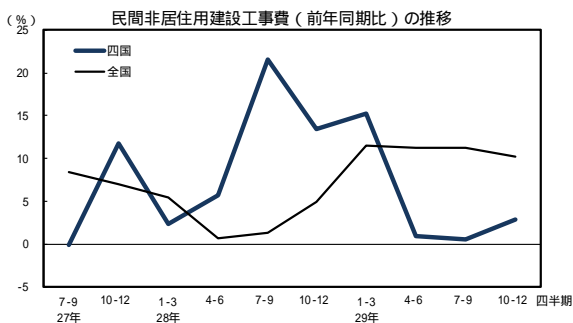


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。30年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(1月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「野菜用資材は前年の台風、寒波の影響で収穫量が減少するも、産業用・雑貨用資材は堅調に推移している(化学工業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は前年に比べて増加している。



(備考) 29年4-6月期以降は国土交通省「建設統計月報」  
の非居住用建築物工事費予定額を平均工期9.8か月  
で進捗展開し、その伸び率を基に実績額を延伸。

企業短期経済観測調査[設備投資(12月調査)]

	(前年度比、%)	
	28年度実績	29年度計画
全産業	13.0	3.7 ( 2.8)
製造業	11.5	11.4 ( 7.5)
非製造業	15.1	25.5 ( 2.5)

(備考)( )は前回(9月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は底堅く推移している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10月は前月比1.5%増、11月は同2.4%減、12月は同1.5%増となった。

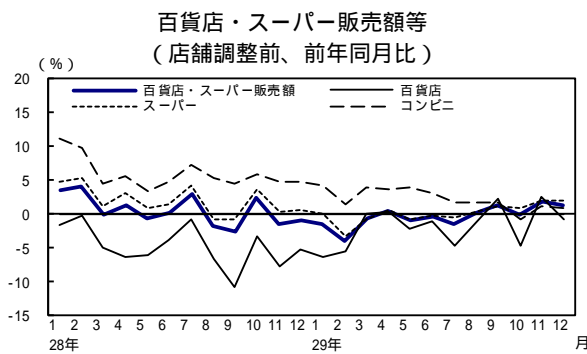
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、10月は、化粧品が堅調に推移し、美術品や宝飾、時計などの高額品にも動きがみられるも、台風の影響もあり衣料品や身の回り品等の動きが鈍く、前年を下回った。11月は、衣料品が伸び悩んだものの、化粧品や高額品が引き続き堅調な上、物産展等の催事が好調な飲食料品も堅調だったことから、前年を上回った。12月は、時計や美術品、化粧品などが堅調だったが、衣料品や身の回り品が弱含み、前年を下回った。

スーパーは、10 - 12月期は、飲食料品で肉類や総菜、冷凍食品などが堅調に推移したことから、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

「春の需要期を迎え、活発な動きではないが良くなっている。1月は前年を上回る販売受注状況であり、好スタートとなっている (乗用車販売店)」などの回答がみられた。

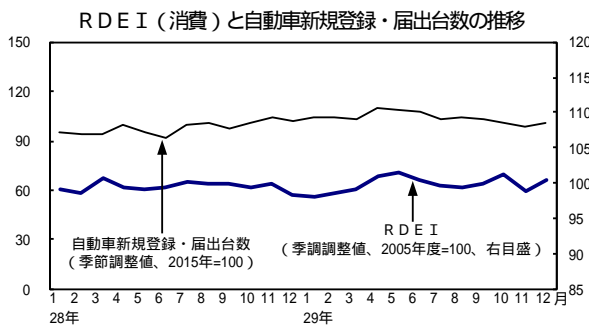


	29年10-12月	29年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	0.5	1.5	2.4	1.5
百貨店・スーパー (*2)	1.1	0.2	2.0	1.3
百貨店 (*2)	0.9	4.7	2.5	0.7
スーパー (*2)	1.6	1.0	1.9	2.0
コンビニ (*2)	0.4	0.8	1.3	0.9
乗用車 (*3)	2.4	0.5	5.9	1.8
(季節調整値) (*3)	3.5	2.7	2.2	2.2

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

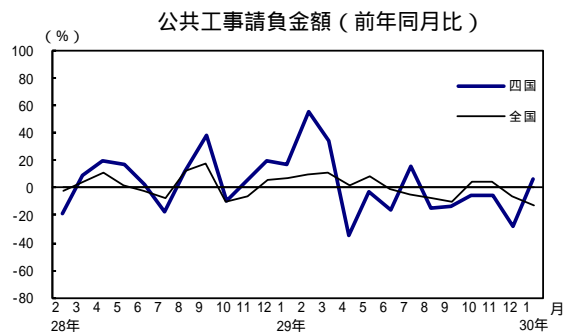
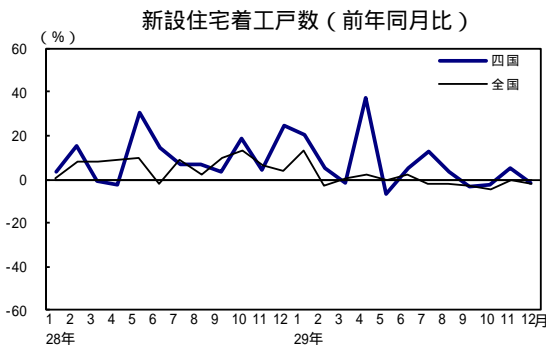
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は前年に比べておおむね横ばいとなっている。

分譲が前年を上回ったものの、貸家、持家が下回ったことから、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は29年度累計で見ると前年度を下回っている。



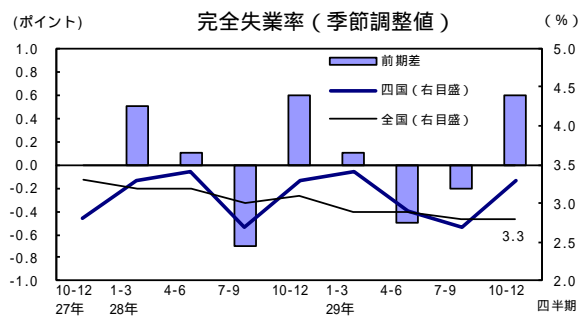
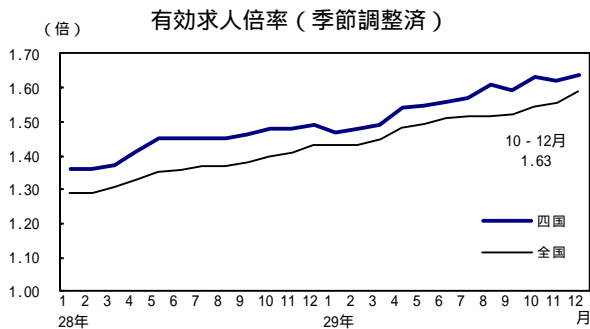
(10) 四国

3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前期を上回っている。



(備考) 内閣府にて季節調整をおこなったが、季節性が認められなかったことから、原数値と同じ。

景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[雇用関連 (現状)]

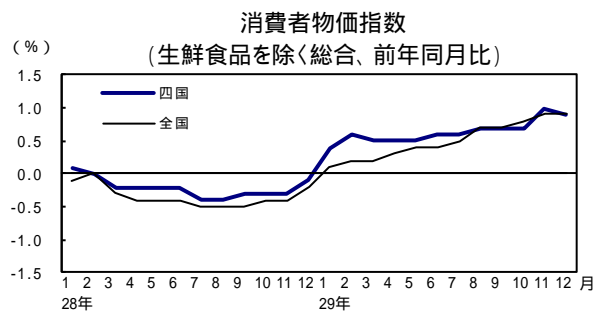
「各企業とも求人を出してはいるが、希望数を確保できないまま求人数が高止まりしている(求人情報誌)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は前年に比べて件数は大幅に増加しているものの、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の上昇幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	29年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	30年1月
倒産件数	30	42	30	37	10
(前年比)	31.8	13.5	21.1	37.0	66.7
負債総額	67	115	53	57	46
(前年比)	43.1	12.1	26.6	15.5	1390.3



景気ウォッチャー調査 (1月調査結果)[合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・例年より寒くインフルエンザが流行したことから、夜の飲食店への客足が悪く、全体的に売上が落ち込んだ(一般小売店[酒])

<先行き>

- ・主力造船関連の建造予定表によると4月以降受注が増加予定(鉄鋼業)

